

科目名	失語症Ⅰ			授業の種類	演習	講師名		
授業回数	15回	時間数	30時間 (1単位)	配当学年・時期	言語聴覚士科1年	後期	必修・選択	必修
〔授業の目的・ねらい〕								
失語症について医学的観点からその基礎となる領域について学ぶ。								
〔授業全体の内容の概要〕								
失語症について医学的観点からその基礎となる領域について学ぶ。								
〔講師の実務経験〕								
幸生病院、ドレミリハビリテーションセンター、機能訓練教室にて言語聴覚士として29年間勤務								
〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕								
失語症についての基礎的な知識を習得する。言語症状の把握や有効なコミュニケーション手段を考え、失語症者の心理的問題を浮き彫りにする。心理的なアプローチに加え、言語訓練に必要な評価や高次脳機能障害、家族関係などの問題も検討する。								
回数	講義内容							
1	失語症とは（その障害の特徴）							
2	失語症の歴史、失語症と関連の深い脳の仕組み、精神の働きと脳の領域							
3	失語症の診断、失語症の分類							
4	脳卒中について、リハビリの原則、言語治療とは、言語治療の流れ							
5	心理的な問題、失語症にみられる主な言語症状							
6	失語症者に対する接し方、失語症者に対する訓練の実際							
7	失語症の原因となる脳の病気							
8	Broca失語について、発語失行について							
9	Wernicke失語について							
10	伝導失語について、ウェルニッケ・リヒトハイムの失語図式について							
11	全失語、超皮質性運動失語、超皮質性感覚失語について							
12	混合性超皮質性失語、健忘失語について							
13	VTRを見て言語症状把握、失語のタイプを分類する							
14	失語に関係のある検査について（特にSLTA、WABなど）							
15	失語症の評価、今後の訓練方針、家族指導など							
【 準備学習・時間外学習 】								
【 使用テキスト 】								
書籍名			著者名			出版社		
標準言語聴覚障害学 失語症学 第2版						医学書院		
【 単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など） 】								
筆記試験にて評価する。								